



## PDA 即興型英語ディベート キーノートディベート（第 29 回）

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2025 年 6 月 1 日（日）10:00-11:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者：8 名（ディベータ 4 名、ジャッジ 1 名、見学 3 名）

### ディベートの様子

今月のキーノートスピーカは、東京大学 日本料理研究・転写グローバルユニット 理事であり、家業として明治 43 年創業の料亭「青柳」を営む小山佐知子氏でした。キーノートスピーカの紹介後はディベートの実践です。今月の論題は、“**Automatic recording of what we eat should be mandatory. (食べたものを自動記録することを義務付けるべきだ。)**” でした。

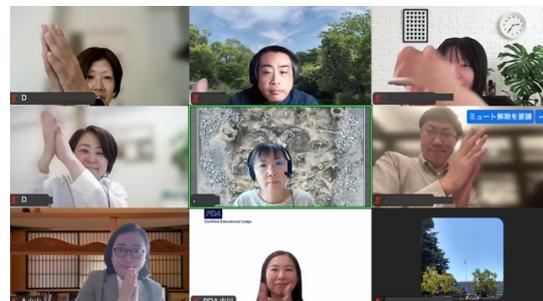


### キーノートスピーカの紹介

ディベートでは、食べたものを自動記録することで人々がより健康になるだけでなく、フードロスの解消になるという論点や、逆にプライバシーの侵害につながる、健康的な生活を強制されてしまうようになるといった論点について議論されました。ディベートが終わると見学者が感想を述べ、ジャッジ参加者が勝敗を発表しました。



ディベートの様子



ディベート後は画面越しに握手します

小山氏より、日本料理とフランス料理の文化的背景や言語化の差異についての説明があ

りました。自身の家業である日本料理店の運営や、父親がフランスで日本料理を教えてきた経験を紹介しつつ、フランス料理が19世紀以降に体系的に制度化されてきた一方で、日本料理は十分な記録や言語化がなされていない現状にあることをご紹介いただきました。

また、明治期以降の日本では、西洋列強に肩を並べるために外交儀礼として西洋料理が取り入れられ、帝国ホテルや料亭文化の形成に至った経緯についても説明がありました。料亭は単なる飲食の場ではなく、近代においては社交や政治的対話の場としても機能していたものの、戦後の制度改変によりその役割は大きく変容し、現在ではレストラン業として再編されていることなどについて、質疑応答を交えながら丁寧にご説明いただきました。



ドナルド・トランプ大統領を招いた富中晩餐会  
2019.5.27



キーノートレクチャーの様子

### 参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・今回も大変勉強になりました。どうも有難うございます！
- ・講師の方のお話が面白かったです。
- ・ディベートの手法、日本料理と記録（歴史）、AIの可能性等、興味深いお話しをありがとうございました。とても楽しかったです。
- ・経済史という分野でご研究されている内容がとても興味深かったです。特に、質疑応答で詳しくご解説いただいた料亭政治に関する内容が面白かったです。このようなテーマに関する研究があるのだなと視野が広がりました。ありがとうございました。